YOKOHAMA ARTSITE

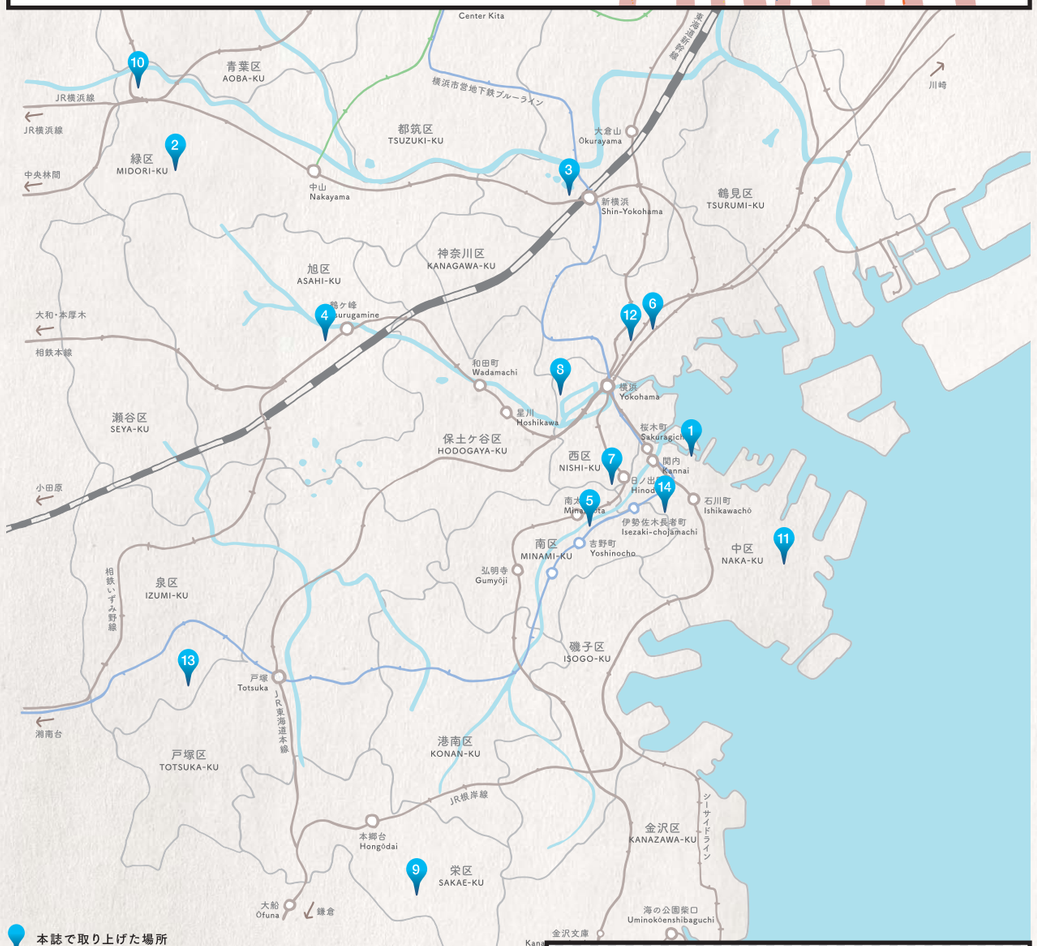
ヨコハマアートサイト　おでかけMAP

ヨコハマアートサイト2015 ～地域のアート活動を応援します～

1件
10万円～

募集期間
2015年3月1日（日）～4月6日（月）

詳細は募集要項およびウェブサイトをご覧ください。
なお、横浜市の平成27年度予算が横浜市会において
議決されることを条件として募集しています。



横浜の地域文化を支援するための「ヨコハマアートサイト」助成金

横浜市地域文化サポート事業「ヨコハマアートサイト」は、毎年、
横浜市内での芸術文化活動を公募し、助成を行っています。
2014年度の採択は20団体。

OPEN YOKOHAMA
あうたびに、あたらしい
Find Your YOKOHAMA

最新情報・詳細はこちら　http://www.y-artsite.org/　ヨコハマアートサイト

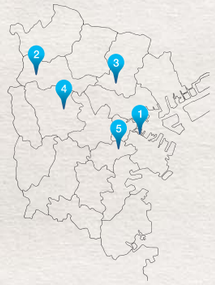
ヨコハマアートサイト

横浜の地域文化を考える・応援する

ともだちの丘えんげきぶ「エイブルフレンドフェスティバル」（P2）

Vol. 003

「特集　さかい目を歩く」



特集　さかい目を歩く

障害者／健常者の区分けからは見えないものがある

いまこの場所で起こっていることをみんなで共有していく

海の間近にある休憩所・象の鼻テラスでは時おり行きかう船の汽笛が聞こえ、会場内に白い光が射し込んでくる。昨年は障害者とアーティストが協働した現代アートの国際展「ヨコハマ・パラトリエンナーレ2014」の会場としても注目された。ここで1月17〜18日に開催されたのはヨコハマアートサイトが支援するエイブルフレンドフェスティバル。昨年に続き「生きづらさ」に焦点を当てた企画だ。

港北区の障害者地域活動ホームで年間を通したパフォーマンス作品作りを行っている「ともだちの丘えんげきぶ」の発表をはじめ、ダンス、人形劇、ライブが続く。障害の有無にかかわらず、舞台も観客席も熱気と拍手に包まれている。これらの作品に共通しているのは遊ぶように楽しみながら、その場で起こっていることを大切にして進めていくワークショップの要素がある点だ。

フェスティバルのシンポジウムに登壇した高崎明さんは「演劇ワークショップ」と呼ばれる活動の先駆者の一人だ。彼は、県内初の知的障害児のための学校である瀬谷養護学校に教員として赴任し、演劇人たちと一緒になって取り組みをはじめた1985年のことを思い返す。

「計画通りに行かないことを引き受けられるかが試され、鍛えられました。面白くないと、みんな外に出て行っちゃうんだもの」。制度や規範に当てはめて考えていた自分よりも、はるかにいい時間を過ごしている子どもたちにどんどん魅かれていったという。

フェスの会場では、出番を待つ誰かが頻繁に出入りする中で、ダウン症の子どもを持つ親たちがランチを取りながら、情報交換を続けている。こんな風にゆっくりとフェスの時間は過ぎていった。

2 ほったらかしの集団が生みだす魅力

2010年、学校の仕事を終えた高崎さんは、学校の卒業生たちと緑区で「カフェベーカリー・ぷかぷか」を開店した。天然酵母のやわらかなパンがおいしい。店内には、富士山のオーナメントや陶器の地蔵、ドローイングなど、スタッフの作品が並んでいる。

店員さんに突如「名前は何ですか？」と尋ねられ、意外なタイミングで会話が始まる。こうしたコミュニケーションも評判になって売上が伸び、スタッフの意欲も上がった。パン屋の隣りに総菜屋と雑貨店もオープンし活動は広がっている。「接客マニュアルがない、いわばほったらかしの集団が地域を豊かにしていくなんて面白いよね」と高崎さんは笑う。

P.1　障害者スポーツ文化センター
横浜ラポール・陶芸サロン
P.2　ともだちの丘えんげきぶ
「エイブルフレンドフェスティバル」
P.3左　緑区「カフェベーカリー・ぷかぷか」
P.3中　障害者スポーツ文化センター
横浜ラポール・陶芸サロン
P.3右　旭区地域生活支援拠点ほっとぽっと
「公然の秘密〜偏見について考える宴」

3 自分が納得したところで作品は、できあがり

新横浜の障害者スポーツ文化センター・横浜ラポールの文化活動で、絵画、料理と並び、開館以来の柱となっているのが陶芸だ。初心者向けの陶芸教室で興味を持った人が、年間を通じて開催している陶芸サロンにやって来る。

蛇のように長くした粘土を慎重に巻きあげている間は、ひとりの時間。手順は教えてくれるものの、どこまで仕上げればいいものか。「自分がこれでいいと納得したところで作品完成です」とスタッフの和田剛さんが声を掛けてくれる。

「その人の目がどれくらい見え、どれくらい手が動くかを確認した上で、サポート役に徹しています。片付けも本人。何の障害があるかはあえて聞きません」。障害種や等級を超えて関われるのが芸術の良さだと思うからだ。

毎年恒例の「ラポール芸術市場」では陶芸をはじめ、絵画や立体作品などアート作品が各地の施設から集まって来る。「こういった障害があるから、この種の作品」という視点ではなく、作品そのものを見てもらう機会が増えるよう、スタッフは努力を重ねている。

4 「福祉の展覧会」をやっているわけではありません

旭区にある地域生活支援拠点・ほっとぽっとの文化班の活動は、ヨコハマアートサイトが継続して応援している企画の一つ。昨年秋には「公然の秘密〜偏見について考える宴」と題した作品展が開催された。16回目となる今回は、精神障害当事者と支援職の人々による作品で会場がぎっしり。ビーズ細工など普段のライフワークを発表する人から、心の叫びを詩にしたためる人までさまざまだった。

障害者アートについて、当事者スタッフの和田公一さんは正直に話してくれた。「文化班の活動をする中でやっと福祉の文脈から離れられたという感じがあったんです。だから福祉とアート、という繋げ方には居心地の悪さを感じます」。

毎回膨大なエネルギーを費やして企画されるこの活動の中では、支援する人・される人という関係がひっくり返ることが、ままある。「みんなの意見から何かが生まれる場がいいんです。その自由さはアートとつながります。アートは何をやってもいいわけですから」。

芸術活動の原点は、彼の言葉に尽きているのかもしれない。

ヨコハマ
アートサイト
ラウンジ
Vol.3&4

風土とアート ダンス教育ラボ

【会場】吉野町市民プラザ会議室（神奈川県横浜市南区吉野町5丁目26）【ゲスト】小倉美惠子（ささらプロダクション）／杉山孝一（大岡川アートプロジェクト実行委員会／宮宿花1・2丁目町内会会長）【主催】ヨコハマアートサイト事務局

【会場】かなっくホール 横浜市神奈川区民文化センター（神奈川県横浜市神奈川区東神奈川1丁目10−1）【ゲスト】川合ロン（Co.山田うん）／楠原竜也／太田早織（神奈川大学）／宮内康乃（つむぎね）／瀧澤優子（西寺尾小学校）【主催】ヨコハマアートサイト事務局＋スクール・オブ・ダンス・プロジェクト

アートで考える地域の風土とダンス教育

時代が移り変わる中で、変化してきた土地や地域の暮らし。1月8日に開催したアートと地域の関わりについて考え、交流する場・ヨコハマアートサイトラウンジの第三回はそれぞれの土地に合わせて新しく生まれたり、古くから受け継がれているアートを通して、地域の風土について考える会となりました。ゲストは地域の暮らしに根ざした映像作品を製作するささらプロダクション・小倉美惠子さんと、ヨコハマアートサイト2014が支援をしている大岡川アートプロジェクト実行委員長でもあり、南区・宮宿花1・2丁目町内会会長を務める杉山孝一さんです。「講」と呼ばれる人のつながりや町内会活動と、地域のアートプロジェクトの類似点——人の輪の中に立ち上がるアートの普遍性や、アートが生み出す新しいコミュニティ。ラウンジ参加者からは「横浜でも、まだ地域でお葬式を出しているところがある」というコメントがあがるなど、それぞれ自分が暮らす地域や故郷に思いを巡らせている様子でした。

同月25日にはヨコハマアートサイトラウンジ第四回「ダンス教育ラボ」を開催。ヨコハマアートサイト2014参加団体として、神奈川区の小学校でダンスワークショップも行うスクール・オブ・ダンス・プロジェクトのメンバーとゲストが登壇し、アーティスト・学校・地域が一体となってダンス教育の現状や課題について考える場となりました。ダンスにより地域の資産である公共ホールと、その周辺で暮らす子どもたちがつながることの魅力や、学校教育の中でそれを行うことに伴う難しさなど事例紹介を織り交ぜた熱い議論が交わされました。

もしもし、そちらの様子はどうですか？

7 8 働く女性が、若者が、まちの仲間になる風景

会社でもない、自宅でもない。みなさんの街には、集い、語り合える心地よい居所はありますか。私が勤めるにしく市民活動支援センターからほど近いところにある横浜の下町には新しい風景が生まれています。

横浜駅西口の喧騒を通りすぎた西区浅間町に空き店舗をリメイクした、女性が集うコミュニティカフェ『ディアナ横濱』があります。〝女性の笑顔で人と人をつなぐ〟をコンセプトとして、様々な背景をもつ女性たちが、美、食、健康をテーマとして、ワークショップ型の講座などに取り組み、和やかな空間を生み出しています。

西区東ヶ丘、多世代・多国籍の交流スペース『カサコ』。地域住民が気軽に立ち寄れる場、海外からの旅行者と地域の子どもたちの交流の場として、まちの、そして世界の軒下としての居所を20代の若い仲間が生み出しています。

まちにはそこに住む人たちや歴史が育んできた包容力があるはずです。新しい仲間に出会い、新しい世界につながる小さなまちの居所は、自分とは違う価値観に出会い、多様性を認め合う包容力を培う場になっているのかもしれません。西区の新しい下町の包容力を感じる居所を訪ねてみませんか。

石井大一朗
特定非営利活動法人
市民セクターよこはま

NPO法人ディアナ横濱
（http://diana.yokohama/）

NPO法人Connection of the Children
（http://www.coc-i.org/）

栄にぎわい寄席（栄区）

地域文化のかがり火

9 第3回 コミュニティも落語家も育む ～栄にぎわい寄席（栄区）

お蕎麦屋さんが、ちょっとだけ装いをかえて、本格的な寄席に早変わり。ちゃんと高座もメクリもある。蕎麦処「弁慶」のお店の中にぎっしりと椅子を並べて、近所の方々約50人が、年末の寒さも構わず集まった。

マイクなしの至近距離なので、噺家が一人一人の客に語りかけているようだ。客はそれに返事をせんばかりに聞き入っている。みんな一緒の大笑いが安心感を生み、気持ちをほっこり暖めてくれる。

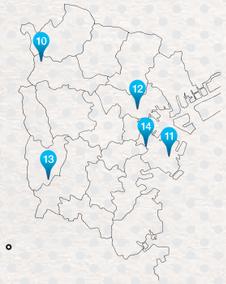
出演は横浜にぎわい座でも活躍中の落語家三遊亭兼好さん。まくらで客の心をグッとつかみ、滑稽な登場人物を表情豊かに描き出していく。兼好さんはかつて二ツ目時代に、この店で何度も高座を経験し、そして真打ちに昇進した。他にも、三遊亭王楽さんや三遊亭萬橘さんもこの場所を経て真打ちに昇進。ここはこれまでこうして若手の落語家を鍛えてきたのだ。

寄席サロン会の主催で毎月行われるこの寄席は、すでに110回を超えた。常連も多く、この寄席を楽しみに集まる人同士での交流も生まれているという。

地元の人たちの手づくりの寄席が、落語家を育み、地域のコミュニティも育んでいる。

終演後、手打ち蕎麦がふるまわれた。笑いの余韻がしみこんだ味だった。

事務局うろうろ日記



ヨコハマアートサイト事務局は、今日も、横浜市内のあっちこっちへうろうろしています。

10 11 11月24日（月）

緑区民文化センター・みどりアートパークにて障害のある人たちによる「表現の市場」。ダンスパフォーマンスや歌劇などの多彩なステージに沸き立つ会場。夜は本牧アートプロジェクト2014「本牧の夜2014」へ。元映画館のロビーで行われるライブイベント。かつての売店には地元のお店が出店し、各店自慢の料理を振舞っている。

12 12月6日（土）

神奈川区・反町地域ケアプラザにて「それでも負けない夢のコンサート」。主催は地域活動支援センターひふみ。神奈川区の6つの事業所から集ったメンバーによる合唱グループやゲストが懐かしのメロディーや、オリジナル曲を披露。アンコールでは会場全体で「きよしこの夜」を合唱し、クリスマスムードに包まれた。

13 1月5日（月）

戸塚駅からバスに乗り通信隊前下車。サイト・イン・レジデンス2014「環世界」7回目の公開プログラムだ。広い空に立派な虹がかかっている。夏の終わりに訪れたときは草いきれの中を歩いたが、今は一面が冬の色。歴史の中で移り変わる土地の様子を、3人のアーティストの視点で映し取るプロジェクト。気づくと虹は消えていた。

14 1月27日（火）

石川町駅から歩いて、居場所「カドベヤですごす火曜日」へ。大きな輪っかにしたハガキ大の紙とたわむれながら、詩を読んでみる。今ここにいる人、会ったことがない人、そして今いない人にも向けて。みんなでつくる今夜のメニューは地元野菜を使ったあたたかいシチューだ。外の寒さで固くなったからだがゆっくりとほぐれていった。

ヨコハマアートサイトとは

この事業は、市民やNPO団体等が主体となって地域課題へのさまざまなアプローチを行う文化芸術活動を支援することで、地域におけるつながりやネットワークを広げ、コミュニティの活性化を図る「地域文化サポート事業」です。そのために、一年を通じて、参加者間の研修や交流に取り組んでいきます。平成26年度より、STスポット横浜、横浜市文化観光局、横浜市芸術文化振興財団で事務局を担当しています。

事務局・お問い合わせ

ヨコハマアートサイト事務局
〒220-0004 横浜市西区北幸
1-11-15 横浜STビル 208
（NPO法人STスポット横浜
地域連携事業部 内）
TEL:045-325-0410
FAX:045-325-0414
WEB: http://y-artsite.org
MAIL:office@y-artsite.org

@Y_Artsite
ヨコハマアートサイト

ヨコハマアートサイトに関することを中心に、横浜市内のさまざまな地域文化活動について発信します。

季刊ヨコハマアートサイト Vol.003

発行	ヨコハマアートサイト事務局
編集	NPO法人STスポット横浜
テキスト	小川智紀　池田友実 鬼木和浩
デザイン	相澤事務所
撮影	福井裕子
印刷・製本	合資会社 三島印刷所
協力	障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール／高崎明 ※五十音順、敬称略
発行日	2015年3月31日

季刊誌についてのご意見・ご感想もお待ちしています。